

一般演題【HBO装置関連】 高気圧酸素治療装置の導入を経験して

縄野礼奈 谷口 真 宮村礼仁

医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院 臨床工学部

【はじめに】

当院は石川県地域がん診療連携推進病院に認定されており、画像診断、手術、化学療法、定位放射線治療といった患者一人ひとりに合わせた最適な治療で、がんの早期発見・早期治療に取り組んでいる。2022年10月に高気圧酸素治療（以下HBO）装置を初導入したので、経験した経過及び導入後の現状と症例を報告する。

【取り組み】

2020年10月1日から定期的に導入準備検討会を開き、準備を進めた。2022年9月には実績のある近隣の医療機関を見学し、必要項目の検討を行った。HBO装置の配置場所確保と配管設置工事をはじめ、患者用更衣室や電子カルテの設置、治療用衣類の運用、システムの追加や治療予約時間調整等を臨床工学技士中心に看護師、システム管理室等と連携し、ミーティングを重ね取り決めを行った。

【結果】

HBO装置や更衣室、電子カルテ等は動線が乱れないよう配置した。患者向けのパンフレット、同意書、問診票や装置の点検表は、日本臨床工学技士会の指標や見学时に頂いた資料、装置の取扱説明書等をもとに作成した。治療は1日最大4件施行できるように時間調整を行なった。2022年10月の運用開始から2023年8月末までに30人、410件治療を施行した。最も多い治療目的は放射線または抗がん剤治療と併用される悪性腫瘍であった。

【考察】

新型コロナウイルスの流行などによって、第一回目の導入準備検討会が開催されてから運用開始まで長い時間がかかった。しかしその分、情報周知や意見交換、勤務体系変更を行う時間が十分にあったためスムーズな導入につながったと考える。見学へ行き、必要項目を検討したことで、必要物品の迅速な準備を行うことができた。また、臨床工学部で作成したパンフ

レット、同意書、問診票を活用することで、看護師による治療前訪問、事前説明と相違が無く、初回の治療開始をスムーズに行うことができた。HBO室は狭い部屋だったが、車椅子やストレッチャーで来る患者もスムーズに更衣室や治療台への移動が可能であった。これは、CEが治療を想定して凶面段階から関わったため出来たことだと考える。今後の展望として、症例検討、患者情報などを等しく把握するために委員会を設置することや、様々な科からHBOオーダーを受け入れ、患者の治療の幅を広げることで、より地域医療に貢献できる体制を整えてきたいと考えている。そのために高気圧酸素に関する学会や研修に参加し、当院CEの知識、技術を向上させていきたい。また、患者様一人ひとりと向き合っ不安等を傾聴し、安全で質の高い医療が提供できるよう、スタッフ間の連携を強めていきたい。

【結語】

高気圧酸素治療装置の初導入に関し、経験した経過及び導入後の現状を報告した。